

北アルプス地域の発展方向(案)

大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村

基本目標 「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村

農業・農村の特徴

北アルプス山麓に広がる盆地で標高が高く、冷涼な空気と清冽な水、昼夜の気温差が大きい環境下で水稻を中心とした農業経営が営まれています。

また、りんご、ワイン用ぶどう、白ネギ、アスパラガス、加工業務用野菜等地域の立地条件を活かした農産物生産が展開されています。

現計画と同様の総農家戸数、耕地面積、農産物産出額棒グラフ(2020年)

県から統一様式で提示

めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる北アルプス地域の農業

- ・ 地域農業を支える経営管理能力に優れた中核的経営体の継承者が確保されています
- ・ 多様な担い手(移住者・高齢者・女性農業者等)が活躍する場が確保されています
- ・ 次世代を見据えた農地条件の改善が基盤整備事業により進められ、水稻栽培が省力化され、高収益作物への転換が図られています
- ・ 土地利用型作物の低コスト・省力化技術、自動給水栓や可変施肥田植機などのスマート農業技術が定着しています
- ・ 水田の汎用化や畑地化が進み収益性の高い品目(施設イチゴ、ミニトマト、玉ネギ、白ネギ等)の栽培面積の拡大と安定生産が行われています
- ・ 環境保全型農業に取り組む中で、地域内の堆肥等資源が土づくりに活用されています

II しあわせで真に豊かな暮らしを実現する北アルプス地域の農村

- ・ 日本型直接支払制度の活用等により農地及び農村の景観が保全されています
- ・ 移住者や企業などを含めた多様な主体の参画による地域ぐるみでの農村地域の維持管理のための活動が行われています
- ・ 農業用ため池、水田等を活用した治水対策の取り組みが行われています
- ・ 地すべり防止施設の適正な維持更新が行われ、農村地域の暮らしが守られています
- ・ 農業用水を活用した小水力発電施設が導入され、農業水利施設の維持管理費の負担が軽減されるとともに、ゼロカーボンの取組にも貢献しています

III 魅力あふれる北アルプス地域の食

- ・ 地域の優れた特産品が北アルプス山麓ブランドとして認定され、知名度が向上しています
- ・ SDGs やエシカル消費への関心が高まり、誘客や地元産農産物の購入が拡大しています
- ・ 農作業体験による食育を通じ、次代を担う若者への北アルプス地域の食文化が継承されています
- ・ 自然と調和した農業環境が観光資源として活用されています

施策の展開方向

重点取組 1 北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

人・農地プランで位置づけられた中核的経営体への農地の利用集積が進んでいます。水田農業の複合化の推進、経営管理能力の向上と農地利用集積等による効率的な経営の実践が課題となっています。

また、就農人口が減少傾向の中で、多様な担い手の確保や経営安定のための支援が必要とされており、大規模経営体や集落営農組織を支える労働力の確保も課題となっています。

【達成指標】

項目	2021年度（現状）	2027年度（目標）
中核的経営体数	423 経営体	※県全体目標数値と調整中
新規就農者数（49歳以下）（単年度）	4人	※県全体目標数値と調整中

【具体的な施策展開】

- 北アルプス地域農業の将来像の明確化による担い手確保と農地集積の推進
 - ・人・農地プランの法定化に伴う「地域計画」の策定を推進
- 北アルプス農業をけん引する中核的経営体の確保・育成
 - ・経営安定・発展の支援、就農サポートと経営サポートを一元化した支援体制を構築
- 新規就農者の確保・育成と、支え手として多様な人材の確保



重点取組 2 新技術の活用、持続可能な生産、稼ぐ産地を支える基盤整備の促進

水稲の大規模化により、低コスト・省力化、大豆、そば等の生産安定・品質向上が課題となっています。

また、環境負荷を低減した持続可能な農業の面的な拡大が求められています。

さらに、生産コストの低減や高収益作物への転換を進めるための基盤整備の推進が必要となっています。

【達成指標】

項目	2021年度（現状）	2027年度（目標）
水稲の低コスト・省力化技術による栽培面積	227ha	325ha
機械収穫適正に優れた大豆「すずみのり」への品種転換	5ha	100ha
持続可能な農業に取り組む面積 （信州の環境にやさしい農産物認証制度）	147.5ha (29件)	※県全体目標数値と調整中
稼ぐ産地を支える基盤整備（区画拡大等）の実施面積	27.0ha	82.0ha

【具体的な施策展開】

- 高密度播種育苗・精密田植え技術など新技術を活用した低コスト・省力稲作の推進及びスマート農業技術の活用による生産の効率化
- 環境負荷を低減した持続的な農業（有機農業など）の面的拡大を推進
- 中核的経営体の経営安定に向けた基盤整備事業の推進及び導入品目の検討と生産安定を支援

重点取組 3 実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

地域の立地条件を活かした園芸作物の生産振興と水田への収益性の高い新たな品目の導入推進、水稲育苗ハウスの後利用による園芸作物の生産振興と高品質安定生産を目指した収益性の高い園芸産地づくりが課題となっています。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
高収益作物の導入を可能にする農地の整備面積	3.1ha	13.0ha

【具体的な施策展開】

- りんご、ぶどう等県オリジナル品種を中心とした新植及び改植、園地更新等の推進及び品質向上に向けた技術支援を実施
- 水田への収益性の高い新たな品目導入推進と必要な支援を実施
 - ・生産者が必要とする機械設備の導入に向けた補助事業等各種施策の活用支援
 - ・基盤整備ほ場の物理性の改善のため、緑肥作物の作付け、カットブレーカー等対策の実施
 - ・水稲育苗ハウスの活用により、ミニトマト等園芸作物の導入支援を実施



重点取組 4 暮らしの場としての農村の振興

高齢化や少子化による人口減少により、地域の共同活動や多様な人々との交流、野生鳥獣害対策等の持続的な農業生産活動の維持が課題となっています。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持発揮するための活動面積(多面的機能支払＋中山間直払)	3,920ha	※活動対象面積を関係機関と調整中
農業用水を活用した小水力発電施設の設置箇所数	1箇所	2箇所

【具体的な施策展開】

- 農村の多面的機能を維持するための、地域住民を主体としつつ企業等との連携による地域ぐるみの協働活動の支援
- 地域ぐるみで行う野生鳥獣対策への支援
- 農業水利施設の長寿命化対策による農業用水の安定供給と水田営農の支援
- 農村型の地域運営組織の組織化による農村コミュニティの維持
- 小水力発電所の設置による再生可能エネルギーの活用



重点取組 5 北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

北アルプス山麓の豊かな自然の中で生産された農産物を活用した特産品づくりや情報発信、販路の開拓、また、観光業と連携した販売促進による地域の活性化が課題となっています。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
北アルプス山麓ブランド認定品目数の拡大	123品	140品

【具体的な施策展開】

- 気象条件や立地条件など北アルプス山麓の特色を活かし生産された農畜産物や加工品を「北アルプス山麓ブランド」として認定
- 北アルプス山麓ブランド認定事業者に対する輸出に向けた商談会等の支援の実施
- 観光業者と連携した販売促進の実施
- 販売力所の拡大、共同イベントの開催



重点取組 6 多彩な農村資源を活用した食の地産地消と食育の推進

学校給食等への食材供給を推進するため、地元農産物等の持続的・安定的な供給体制が求められています。

また、地域の風土・伝統文化等の農村資源を活かした学習旅行等、農業体験を提供できる取組の充実や児童・生徒、一般消費者への食の地産地消を始めとするエシカル消費に対する関心と理解の醸成が課題となっています。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
学校給食における県産食材の利用割合（品目ベース）	47.0%	48.5%
食農教育、農業・農村体験交流活動の実施回数	33回（7団体）	35回（7団体）

【具体的な施策展開】

- 学校給食へ提供する農産物の生産組織の育成と供給体制の整備
- 農村生活マイスター等を核とし、栄養教諭等と連携した児童・生徒への食育活動による次世代への食文化の継承
- 農村女性セミナーの開催による若手農業リーダーの育成
- 観光と連携した学習旅行等の受け入れ、収穫体験等の充実

